備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成3年	根拠法令・例規等	備前市歴史民俗資料館設置条例
総合計画 大項目	基本目標 03 地域と文化と人が輝くまちづくり	問合先 担当課（室）	生涯学習課
中項目	基本施策 03 地域と文化の輝くまちづくり	職・氏名	係長　石井啓
小項目	施策 01 文化芸術の振興	電話	0869-64-1841
事務事業名	02 歴史民俗資料館管理運営事業	このシート作成に要した時間	3.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	備前市の歴史・文化などに興味のある人すべて。
目的（何のために）	郷土の関する資料の収集、調査を行い、展示などを通して地域の文化や歴史についての理解をふかめる。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	地域に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館にしたい。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業 細事業名	事業の説明	優先度
歴史民俗資料館管理運営事業	「ハルカの陶原画展」や「備前の戦国」などの企画展、「ハルカ’s　DAY」など子ども向けワークショップなどを開催し、備前市の歴史・文化を広く紹介した。	◎

決算額 事業費等	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
事業費 直接事業費	千円	13,118	8,059	7,470
必要人員 人件費	千円	0.02人 184	0.11人 916	0.16人 1,412
事業費計	千円	13,302	8,975	8,882
財源 国県支出金	千円	4,305	4,305	
受益者負担	千円			
繰入金	千円			
市債	千円			
その他（　）	千円			
一般財源	千円	8,997	8,975	8,882
受益者負担比率	%	―	―	―

結果指標 結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
説明		年間入館者数		
結果指標量		1,991	3,066	2,765
対前年比	%	―	154.0%	90.2%
活動コスト	円	13,019,000	8,975,000	8,882,000
単位当たりコスト	円	6,539	2,927	3,212

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
年間入館者数	目標値（A）	2800	2600	3000	3000
	実績値（B）	1991	3066	2765	到達目標値
	達成率（B/A）	71.11%	117.92%	92.17%	3000

成果指標設定の考え方・式や説明

地域の方々が気楽に来館し、郷土の歴史や文化にふれ、地域の魅力を再確認するため年間入館者数を設定した。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性 / 必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価：B

効率性の評価

コスト / 手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：C

有効性の評価

目的達成度 / 市民参画度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：C

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：平成25年度から学芸員2名の新体制になり、今まで以上に地域に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館を目指している。

総合評価

「ハルカの陶原画展」、「備前の戦国」など子供も楽しめる企画展や子供向けのワークショップを開催したが、全体の入館者数は減となっている。「備前市の歴史・文化」に関して情報発信はできているが、管理運営のコスト削減は限界である。

総合評価：C

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：25年度に策定される備前市歴史文化基本構想に基づき、市内に複数ある文化施設の役割分担を明確化し、施設を運営していく。